

Lyric Colors vol.12

リリック カラーズ

2024
3.25発行
TAKE
FREE

あなたの毎日に芸術文化のいろどりを。



スペシャルインタビュー
バンドネオン奏者 **小松 亮太**
ジャズピアニスト **Masumi Yamamoto**

特集
森山開次 / 新版・NINJA

注目公演
第43回 長岡少年少女合唱団 定期演奏会
村治佳織 & 村治奏一 ギター・デュオ・リサイタル

公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 広報誌

4/28日
リリックホール
開演/14:00

第43回 長岡少年少女合唱団 定期演奏会 ～ 春風にのせて こどもたちが贈る とっておきの ハッピータイム ～

全席自由 入場無料 ※直接会場へお越しください ※4歳から入場できます

明るく元気いっぱいな歌声を
ぜひお楽しみください!

1957年に設立された伝統ある長岡少年少女合唱団の定期演奏会を今年も開催します!! 今回は、ドラゴン(龍)がエネルギーのシンボルとして湧きあがり、子どもたちの無邪気で愉快な世界を歌う「ドラゴンソング」、モーツァルトのオペラ(ジグジュピール)『魔笛』をもとにした子どものための合唱劇「笛吹きのパバゲーノ」、「MAGNIFICAT」全曲等を明るく元気いっぱいの歌声でお届けします。



[プログラム] 同声合唱とピアノのための組曲「ドラゴンソング」
女声合唱とピアノのための組曲「MAGNIFICAT」
たのしいディズニーの歌
合唱劇「笛吹きパバゲーノ」子どものための『魔笛』 ほか

団員コメント

ぼくがぜひ聴いてもらいたい曲は「ドラゴンソング」の中の『だからからだなのだ』です。リズムが体をわくわくさせて、手や足が勝手に動き出します。歌詞に出てくる子が自分みたいで、ぼくは歌いながら心の中で「ニヤッ」としてしまいます。曲の中のおかしな「ぼく」に会いにきてください。

みんなで歌う楽しさや、曲の歌詞に込められた思いが届けられるよう、みんなで心をひとつにし、歌います。「笛吹きパバゲーノ」では、私がパバゲーノ役をやります。パバゲーノの気持ちを伝えられるように頑張ります。ぜひ、観に来てください!

大楽 泰平(小学5年生) 布川 歩夢(中学2年生)



団員募集中!
詳細は
コチラ
→
長岡少年少女
合唱団ブログ

5/18日
リリックホール
開演/14:00

村治佳織 & 村治奏一 ギター・デュオ・リサイタル

全席指定 5,500円 ※未就学児入場不可

チケット好評発売中

豪華姉弟デュオが
織り成す
極上のアンサンブル

日本のクラシック・ギター界を代表するスター・プレイヤー村治佳織と村治奏一がリリックホールに初登場します。クラシックから映画音楽までの多彩な名曲が、個性光る独奏や姉弟ならではの“あうんの呼吸”で紡がれる美しい音色は絶品です。デビュー30周年を迎えた姉 村治佳織とデビュー20周年の弟 村治奏一、いまだからこそ味わえるふたりの研ぎ澄まされた響きをご堪能ください。



[曲目] A.ピアノソナ/飯泉昌宏編 リベルタンゴ
M.ラヴェル 亡き王女のためのパヴァーヌ
J.ブラームス 主題と変奏(弦楽六重奏曲第1番より)ニ短調Op.18b
久石譲/小関佳宏編 映画『ハウルの動く城』から(人生のメリーゴーランド) ほか

[村治 佳織]
幼少の頃より数々のコンクールで優勝を果し、ビクターより15歳でCDデビューを飾る。1996年には、イタリア国立放送交響楽団との共演がヨーロッパ全土に放送され好評を得た。N響ほか国内及び欧州のオーケストラとの共演も多数重ね、2003年英国名門DECCAと日本人としては初の長期専属契約を結ぶ。受賞歴も多く、第5回光音楽賞、村松賞、第9回ホテルオークラ音楽賞、ブルガリアウローラアワード2019を受賞。2018年9月にリリースした『シネマ』は、2度目の日本ゴールドディスク大賞を受賞。2023年10月、デビュー30周年記念ベストアルバム『CANON』をリリース。
◆OFFICIAL HP <http://www.officemuraji.com>

[村治 奏一]
1998年第41回東京国際ギター・コンクールほか数多くのコンクールにて優勝。2003年米国のウォールナット・ヒル・スクールを首席で卒業後、マンハッタン音楽院に進学。2006年本格的に米国デビュー。2012年「トヨタ・クラシックス・アジアツアー2012」のソリストに抜擢、ウィーン室内管弦楽団と共にアジア5カ国でのコンサートツアーを成功させた。2016年ソリアルbum『Off the Record』をテレビマンユニオンよりリリース。2019年からはインターネット配信アルバム『TONES 2019』をリリースし、これまでに、NHK交響楽団をはじめとしたオーケストラと多数共演。
◆OFFICIAL HP <https://www.soichi-muraji.otohako.jp/>

[表紙]
2/18開催「おしほい体験ワークショップ」の様子
小学生から高校生の参加者が、日本を代表する老舗劇団「文学座」のプロ講師から楽しく表現力について学びました。

Lyric Colors vol.12
(2024年3月25日発行)

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6
TEL.0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>





小松 亮太

バンドネオン奏者
スペシャルインタビュー

中学3年生でデビュー

父はギター、母はピアノのタンゴ奏者だったので、日常的にタンゴを耳にしながら育ちました。初めてバンドネオンに触れたのは中学2年生の時。当時、バンドネオンの奏者不足が両親の悩みでもありました。そこに両親の知人であるアコーディオン奏者の方からバンドネオンをやってみてほしいと相談があり、彼のために両親が楽器を用意してあげたんです。ところが彼は、5分くらい触って「難し過ぎる!」と、返品してしまいました。アコーディオンと見た目が似ているので、演奏上の関連があると思ったのでしよう。そんなわけで、我が家にバンドネオンが置いてありました。「ボタンを押せば音が出るんだし、そんなに難しくありませんよ。」と、興味本位で楽器を手に取りました。鍵盤はなくボ

タン式。しかもその配列は無秩序。確かに指使いはややく、毎朝学校に行く前に配列を暗記することから始め、自分なりに奏法を習得しました。周りの大人たちから才能があると持ち上げられ、すっかりその気になり楽器に没頭していきました。

ステージデビューは中学3年生の時。1980年代後半のバブル期は企業のパーティーが盛んになり、タンゴバンドの仕事も多くありました。しかし、当時のバンドネオン奏者は全国で6、7人しかいなかったため、まだ始めて1年足らずの僕にまで仕事の依頼が来てしまったのです。本来はしっかりとした教育を受け切磋琢磨した人がプロと呼ばれるべきで、こんなに易々とデビューしてよかったのか...と、今でも考えています。しかしながら、指導者がいない状況で、

プロの演奏を頻りに聴きに行ったり、アルゼンチンからタンゴ奏者が来日したときには、宿泊先まで行ってアドバイスを受けたりと、そうやって僕なりの努力をし、現在プロ奏者としてやっています。

タンゴファン、タンゴミュージシャンを増やしたい

「タンゴに興味がない人たちに、どうやってタンゴを知ってもらおうか」と、常に考え続け、デビューから25年が経ちました。なぜ、こんなにタンゴの普及に必死なのかというと、タンゴファンとタンゴ奏者の高齢化と減少が、日本のみならず本場アルゼンチンでも著しいからです。僕が20代の頃、既にお客様は若くて60代。僕が40歳になる頃にはお客様がいなく

なるんじゃないか...と、当時から強い危機感を抱いていました。

Profile 小松 亮太 バンドネオン

高校時代より才能を発揮し、伝説的歌手である藤沢嵐子の91年のラストステージではバンドネオン・ソロで伴奏を担当。98年のCDデビュー以来、カーネギーホールやアルゼンチン・ブエノスアイレスなどで、タンゴ界における記念碑的な公演を実現。ソニーミュージックより20枚以上のアルバムを制作。「ライブ・イン・TOKYO〜2002」がアルゼンチンで高く評価され、03年にはアルゼンチン音楽家組合(AADI)、ブエノスアイレス市音楽文化管理局から表彰された。15年、大貫妙子との共同名義アルバム『Tint』が、第57回輝く!日本レコード大賞「優秀アルバム賞」を受賞。作曲活動も旺盛で、TBS系列『THE世界遺産』OP曲「風の詩」、映画「グスコブドリの伝記」(手塚プロダクション制作)、など多数手掛けている。2021年、オフィシャルサイト https://ryotakomatsu.net/ 書籍「タンゴの真実」(旬報社)を上梓。

藤沢嵐子さんが晩年を過ごした長岡で

長岡にはプライベートで2度訪れたことがあります。あの偉大なタンゴ歌手 藤沢嵐子さんにお会いするためでした。彼女は66歳でスバッと表舞台から去り、晩年はお弟子さんの住む長岡で静かに暮らしておられました。

嵐子さんの全盛期をリアルタイムでご存知の方は少ないかもしれません。彼女は、あのピアノと2回も共演したことがある実力者です。昭和20年代に大人になってから学んだ外国語を操り、本場タンゴ歌手と同じ土俵で対峙し、本場で名声を得るといって、物凄くアーティストでした。新潟市で僕のコンサートがあった時にサイン会場に来られたのですが、関係者に「あの方は何者ですか?」と聞かれるほど、尋常でないオーラを放つ格好良い方でした。このたび、そんな嵐子さんが晩年を過ごした長岡でステージに立つにあたり、何とも厳肅な想いもありつつ、興奮もしております。

今回の公演は、サブタイトルを「追憶 伝説的タンゴ歌手 藤沢嵐子が愛した長岡で」と、させて頂きました。コンサートでは嵐子さんとの思い出の曲も演奏させていただきます。もちろん、タンゴの名曲から僕のオリジナル楽曲もご用意しております。そして、タンゴの面白さを徹底的に解説します。長岡の皆様とタンゴの魅力をつかち合えれば幸いです。

MEMO

藤沢嵐子「1925・2013」
1943年、東京音楽学校(現・東京芸術大学音楽学部)に入学するが、休学を余儀なくされ満州へ。終戦後帰国し、1949年から後の夫となる早川真平の楽団「オルケスタ・ティピカ東京」の専属タンゴ歌手となる。その後、「タンゴ女王」と呼ばれ、1950年代の日本のタンゴブームの立役者となり、本場アルゼンチンでも人気を博した。NHK紅白歌合戦に57年から5年連続で出場するなど、国内外で活躍。1991年に惜しまれながら引退する。

アルゼンチンを代表する音楽!?

実はタンゴを知らないアルゼンチン人は多いです。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの限られた地域で親しまれていました。また、ブエノスアイレスにはヨーロッパ各地からの移民が多く、そのなかのジャズやクラシック奏者が様々なジャンルと融合させて生まれたのが「タンゴ」です。

“魅惑”、“情熱”のイメージはないんです

ブエノスアイレスは“南米のパリ”とも呼ばれていて、そこに住む人々もパリジャン気取り。情熱的というよりはむしろ気取っている感じです。アメリカで興行するために作られた商業的戦略イメージが浸透してしまっただけです。

知られざる“タンゴ”と“バンドネオン”の世界

小松さんが教えてくれました!

アコーディオンとよく間違えられます

同じ蛇腹楽器ですが、全くの別物です。簡単な見分け方は、長方形はアコーディオン、正方形がバンドネオン。右に38、左に33のボタンがあり、パソコンのキーボードのように音階がランダムに配置されています。同じ指使いでも蛇腹を引いたときと押しときで音が変わります。

小松さん愛用のアルフレッド・アーノルド社バンドネオン

ドイツ生まれ

もともとは、ドイツの田舎でフォークダンスの伴奏などに使われていました。バンドネオンの原型“コンツェルティナ”をカール・フリードリヒ・ツィンマーマンが発明。

たくさん種類があります

ライニッシュ型と呼ばれるバンドネオンがアルゼンチンに渡り、現在のタンゴミュージックの定番楽器となりました。

デビュー25周年 小松 亮太 アルゼンチンタンゴ五重奏

— 追憶 伝説的タンゴ歌手 藤沢嵐子が愛した長岡で —

6/1(土) 開演 15:00

長岡リリックホール・コンサートホール

全席指定 4,000円
[U-25] 1,500円

【曲目】
ピアノ：リベルタンゴ
マテオ・ロドリゲス：ラ・クンパルシータ
小松亮太：風の詩〜THE世界遺産
ピアノ：ロコへのバラード ほか

※未就学児入場不可
※U-25は、25歳以下の皆様には舞台芸術に親しんでいただくための割引料金です。

※プログラムは変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

小松 亮太(バンドネオン)

近藤 久美子(ヴァイオリン)

鈴木 厚志(ピアノ)

鬼怒 無月(ギター)

西嶋 徹(コントラバス)

Masumiさんが語る“TLQ plus”について

私は、大学卒業後、作曲を学ぶためにアメリカ留学しました。L.A.で音楽活動をしたいと先生に相談したところ、Trevorを紹介され、彼のスタジオを訪れました。初めて彼の演奏を聞いた瞬間「一緒に演奏してみたい!」と衝動的に感じ、そこから本格的にジャズの道へ。そして、2015年にTrevorとともに“TLQ plus”を立ち上げました。その後、2018年にHenry Franklin, Tony Austin, Roy McCurdyの3人を迎え、JAZZ界におけるレジェンドたちを集めた“ドリームチーム”へとグループを拡大させました。メンバーは、レジェンド中のレジェンドであるにもかかわらずフレンドリーでとても面白く優しく、人懐っこい人たちです。演奏にも彼らの人柄の良さが表れていると、一緒に演奏するたびに感じます。往年のジャズファンの方から、現代的なサウンドが好きの方までを満足させられる、他では聴けない音楽を創るために“ツインドラム”という構成となっています。L.A.発の私たちのパフォーマンスにご期待ください!



昨年の長岡公演の様子(撮影:元井欣一)

長岡出身・ジャズピアニスト

TLQ plus Band Member Profile



マズミ ヤマモト
Masumi Yamamoto ジャズピアニスト/作曲家

4歳からクラシックピアノを、6歳から作曲を始める。ジャズピアニストとして、2015年ジャズグループ『TLQ plus』を結成し、演奏と作曲を担当。またエイザーローレンス、ロイマッカーディ、ヘンリーフランクリンなどが率いるグループでも演奏。大学卒業後、ロサンゼルスへ渡りFortress USA Recordsと契約。作曲家、アレンジャーとしてアメリカズゴットタレントなどの人気TV番組などで音楽を担当。シンガーソングライターとしての1stシングルはアメリカ本国でのビルボードマガジンHip-Hop, R&Bチャートで最高位4位になった。現在まで行った国内公演は全て完売し、様々なメディアで紹介され話題となっている。



トレヴァー ローレンス
Trevor Lawrence サクソフォニスト/作曲家
アレンジャー/プロデューサー

スティーヴィー ワンダー、ザ ローリング ストーンズ、マーヴィン ゲイ、ハリー ニルソン、B. B. キング、リング スター、エタジェームズといった名立たるレジェンドたちのツアーや歴史的名曲のレコーディングに参加。歴史的な音楽イベント「ウッドストックフェスティバル」に出演。また、ポインター・スターズの“アイムソー エキサイトッド”では作曲プロデューサーを手掛ける。現在もミュージックシーンのキーパーソンとして精力的に活動を行っている。



ロイ マッカーディ
Roy McCurdy ドラム

ソニー・ローリンズ、キャノンボール・アダラー、ジョー・ザヴィヌル、ブラッドスウェット&ティアーズ、サラ・ヴォーン、ナンシー・ウィルソン、カウント・ベイシーらのアルバムでレコーディング/演奏している。また秋吉敏子、リー・モーガン、フレディ・ハバード、ロン・カーター、ハービー・ハンコック、マッコイ・タイナー、エラ・フィッツジェラルドらと共演。アート・ファーナー・ジャズテット、そしてキャノンボール・アダラー・クインテットの正式メンバー。現在、南カリフォルニア大学ソントン音楽院およびバサデナ音楽院の非常勤教授を務めている。



トニー オースティン
Tony Austin ドラム

ローリン・ヒル、カルロス・サンタナ、ロビー・クリーガー、テレンス・ハーワード、インディア・アリー、ロイ・ハーグロブ、そして最近ではウィロー・スミス、グウェン・ステファニー、パティ・ラベル、デイヴ・シャベルなど、多くの著名なアーティストとツアーやレコーディングを行ってきた。カマシ・ワシントンの「ザ・エピック」やそれ以降のアルバムでもレコーディングやツアーに参加している。



ヘンリー フランクリン
Henry Franklin ベース

別名スキッパー。ロイ・エアーズ・ラテン・ジャズ・クインテットでベーシストとしてキャリアを始め、ハンプトン・ホーズらと出会い演奏をした。その後、ヒュー・マセケラと『グレイジング・イン・ザ・グラス』で共演。さらに、スリー・サウンズ、フレディ・ハバード、カウント・ベイシーらのツアーに参加。スティービー・ワンダーと共に「シークレット・ライフ」でゴールド・レコードを獲得。また、ファラオ・サンダース、ジョー・ウィリアムズ、ソニー・ローリンズ、ポピー・ハッチャーソンなど、伝説的アーティストたちと共演。参加したアルバムは100枚以上となる。

とにかくJAZZって楽しい! 私にとってJAZZは、その瞬間の想いや感情を表現できる魔法のツールです。ライブは、ソロでもグループでも、周りの音を聴き、会場の雰囲気を感じながら、その時にしか描けない自分の物語を奏でることが、とにかく気持ち良くて楽しいです。お客様の熱気を感じると、もっと楽しみたい!と、さらに熱くなり、ライブハウスのフロアで踊るお客様がいらつしやると、よしよし!と、最高にうれしくなります。そんな風にお客様と繋がるのが、JAZZの醍醐味だと思っています。そして、理屈抜きでシンプルにJAZZって楽しい!と、二人でも多くの方に感じていただけるようなライブを心がけています。

最高のパフォーマンスで、感謝の想いを伝えたい! コロナのパンデミックの際に、これ以上アメリカでの活動を続けるのは難しいと判断し、2時的に長岡に帰ってきました。先が見通せないなか、手探り状態で少しずつライブ活動をしてきた2年前、ホイエコンサートに出演させていただいたのが、触れ、音楽とは「音を楽しむ」こと、という原点を改めて実感することができ、これまでのコンサートとは違った喜びを味わうことができました。JAZZを通して、子どもたちがもっと自分を解放して、自由に自分を表現できるようになってくれたらいいな、と考えています。子どもたちが生の演奏に触れる機会のためにも、JAZZの魅力発信のためにも、今後も続けて行きたい活動です。

Masumi Yamamoto

スペシャルインタビュー

Masumi Yamamotoさんが、活動拠点があるロサンゼルスで結成したTLQ plus全メンバーを率い、再びリリックホールのシアターに登場します。昨年の凱旋公演では、伝説のサクソフォニスト Trevor Lawrenceさんとともに満席の会場を魅了しました。今年は、Trevorさんをはじめとしたジャズ界の大御所たちとともに、アメリカの観衆を惹きつけてきたサウンドをお届けします。

Masumiさんに、ご自身の活動への想いやバンドメンバーについて語っていただきました。



小中学校訪問コンサートの様子

リリックホールでの初ステージでした。そして昨年、長年抱いていた夢、Trevorとのライブをシアターで開催することができました。そこから、さらなる大きな夢、『TLQ plus』メンバー全員での長岡公演が今年6月に決定しました。帰国して何も見えないなか、諦めずに音楽活動を続けてきて本当に良かったと思っています。そしてTLQ plusのメンバーも私の故郷で演奏できることを大変喜び、とても楽しみにしています!

新潟の人はシャイだとよく言われますが、私はお客様にそれを全く感じたことがありません。何か特別な繋がりのようなものを感じています。そして、お客様が楽しんでくださっている笑顔がいつも私の励みとなっています。この感謝の想いを、今できる最高のパフォーマンスで皆様にお伝えします。私がアメリカで大切に演奏してきた音楽、JAZZを味わっていただける時間をご用意します。会場でお待ちしています!

Masumi Yamamoto with TLQ plus

長岡リリックホール・シアター

Special JAZZ LIVE

6/15(土) 開演 19:00
全席指定 4,000円 [U-25] 1,500円

人気オリジナル曲からジャズスタンダードの名曲によるスペシャルプログラムをじっくりとご堪能ください。
※U-25は、25歳以下の皆様に舞台芸術に親しんでいただくための割引料金です。

What is JAZZ?

ジャズってなんだろう?

6/16(日) 開演 15:00
全席指定 1,500円

子どもから大人までJAZZの魅力を満喫できる、解説付きのライブです。

(チケット一般発売日)4/12(金) (リリックm.c.優先予約)4/11(木) ※未就学児入場不可

ひっそり ★ こっそり ★ ごっそりと

NINJA 忍者 解説しちゃいます!

ストーリーはありません

この作品には、原作やストーリーはありません。敵と戦うとか、何か具体的な任務がある物語の方が、お客さんにもわかりやすいのかもしれませんが、それに終始しなかったで、連想ゲームをするように作りました。観客の皆様の中で、物語が生まれてきたらいいなと。私は小学生の頃、忍者ごっこにハマって、すごく真剣にやっていた。真剣に秘密基地で忍法を習得しようとしていました(笑)。宙返りして手裏剣を投げたり、変な技を開発して「忍法〇〇!」と言いながら走り回ったりしながらいろんな失敗をして、けがをしたり、蚊に食われたり、蜂に刺されたりしたその記憶を、作品に取り込みました。そうした楽しい思い出の先に、忍者の厳しさ、忍びの世界が持つ深さを描きたいと思っています。

素敵なキャストたち

今回も素晴らしいダンサーが集まってくれました。バレエや新体操、ジャズダンサー、コンテンポラリーダンサーなど、様々なジャンルのダンサーが出演してくれます。私の忍術はダンスです。素晴らしいダンサーたちが、花札をめくるように次々と、時に可憐に、時に大胆に、時にひっそりと登場します。それぞれのダンサーの身のこなしを存分に楽しんでもらえればと思います。最高のダンサーたちです!

見どころ満載

全て見所です。映像と衣裳と音楽、そしてダンスが融合した「NINJA」の世界。チラシの絵は、私が描いています。少年時代は、忍者ごっこと同じくらい、絵を描くのが好きな少年でした。今も絵を描くのは大好きで、ダンスの作品をつくるときも、まずは童心に帰り、絵を描いてイメージを膨らませました。チラシには、いろいろな忍びたちが描かれていますが、作品に登場するキャラクターが、こっそり隠れていますので、ぜひ舞台上で探してみてください。

ファミリー向けダンス公演を作るって、そして「NINJA」に込めた想い

子どもと大人が一緒に夢中に観られる舞台を作りたいと思っています。子どもの頃に強く感じたことは、ずっと体と心に残っているものです。「未来を担う子どもたちの心に残る舞台を作る。」こんなやりがいのあることはない。とても大切なことです。本当の意味で、子どもたちの心に触れる舞台を作ること、簡単にはできないので全力で臨んでいます。

子どもたちは、これからさまざまな体験をし、感じ、考え、どんな個性を育んで、大人になってゆくのでしょうか。そして、どんな生き様をまっさらな未来に描いてゆくのでしょうか。この舞台「NINJA」を通して、生きることに楽しさ、厳しさ、苦しき、そしてうれしさを感じてもらえたら本望です。忍者は何か大きなものと戦っている、それは一体何なのか。大人が子どもに託したい想い、これからの未来を子どもたちが、そして私たち大人が、どのように生き抜くかを共に考えるきっかけになればと思っています。

長岡に何うのは、私は初めてになります。どんな街の空気なのか、どんな人に出会えるのか今からとても楽しみです。大人の方には、たとえ子どもの付き添いで観てきたとしても、すっかり忘れて、親子で夢中になって観てもらえたらうれしいです。ひっそりこっそり、長岡の皆様を心奪いに参上します。ご来場お待ちしております。



Illustration by Kaiji Moriyama

森山開次 / 新版・NINJA 忍者

7/14 日 開演 14:00
長岡市立劇場・大ホール

チケット一般発売日 5/11(土)
リリックm.c.優先予約 5/7(火)

[出演] 森山開次 青木 泉 浅沼 圭 佐藤洋介 根岸澄宜
府川萌南(新国立劇場バレエ研修所) 美木マサオ
水島晃太郎 南 帆乃佳 吉崎裕哉

参加者募集

森山開次さんとからだを動かしてみよう!

6/15(土) 13:30~

対象 小学生(1~4年生)

長岡リリックホール・第1スタジオ

定員 20名

ダンス未経験者大歓迎

チケット料金、ワークショップなどの詳細は長岡市芸術文化振興財団へお問い合わせください。



特集

森山開次 / 新版・NINJA 忍者

ダンサー、演出家として唯一無二の活動が世界から注目されている森山開次さんが手掛けた、大人も子どもも楽しめるダンス公演「NINJA」が長岡で初上演されます!音楽、衣裳、照明、映像とダンスが見事に融合した「NINJA」は、2019年に初演され、全国で大反響を呼びました。さらにスケールアップした、新感覚のダンス公演にご期待ください!

今回は、森山さんからご自身について、そして、演出・振付・出演もする、「NINJA」についてお話を伺いました。



森山開次 振付家・演出家

21歳でダンスを始める。2005年「KATANA」で「驚異のダンサー」(ニューヨークタイムズ紙)と評され、07年ヴェネチアアピエンナーレ招聘。12年「曼荼羅の宇宙」にて芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞、松山バレエ団顕彰・芸術奨励賞を受賞。19年「ドン・ジョヴァンニ」でオペラ初演出、20年新国立劇場バレエ団「竜宮 リュウクウ」で全幕バレエ演出振付美術衣裳を初めて手掛け、世代を超えて多くの観客を魅了した。21年東京2020パラリンピック開会式演出・チーフ振付など、幅広い分野で積極的に活動している。

ダンス以外の特技

ダンスは大好きだけど、実は一番苦手で、特技にしたいと思って必死で踊っています。私が自分で得意だと思ふことは、正直ないのですが、強いてあげるなら、図画工作かな。絵を描くのも好きだし、お面などの小道具作りは得意な方ですかね。

最近はまっていること

コンビニに入ると、プロテイン飲料をつい買ってしまうこと(笑)。

今後の目標

踊りを通して、人に出会い、世界に出会い、いろいろなことを学び、感じ、踊り続けたいと思っています。

オフィシャルサイト
<https://kajimoriyama.com>



「ダンスを始められたのが21歳ということですが、子どもの頃はどのように過ごしていましたか?」

子どもの頃はスポーツが好きで、たくさん身体を動かしていました。小学校の時はサッカーと器械体操、中学でバレーボール、高校で再びサッカーをやりました。そのお陰で、体力と忍耐力、行動力はついたと思います。例えばサッカーで、ボールの動きに合わせて身体を動かす反射神経や、その瞬間をキャッチして、柔軟に反応して動けるように訓練したこととは、ダンスにとっても生かされていると思います。

絵を描くのも小さい頃からずっと好きだったんで、いろんな世界を想像して空想画を描いたりしたことは、今のダンス創作に繋がっているかもしれません。それと、小学校の時に習った書道は、踊りにかなり近い極意が含まれています。筆のトメ、ハネ、ハライなど、筆の運びの動きは、踊り

そのもの。体が筆で、想いが墨。書道をやっていると良かったと思っています。

「森山さんの専門ジャンルについて教えてください。」

専門ジャンルを言葉で説明するのは難しいですね。いろいろなダンスを経験してきましたが、今の一般的なカテゴリーで分けると、私はコンテンポラリーダンサーとなるのでしょうか。ですが、私自身、コンテンポラリーダンサーと思ったことはなく、シンプルに「踊る人」であればよいと思って活動してきました。コンテンポラリーダンスの定義は諸説あり、きちんとお答えできませんが、私には「今、創作するダンスが一番しつくりきます。ですが、どのジャンルのダンスであつても、たとえ伝統舞踊でも、はじめは創作から始まったのだと思います。コンテンポラリーダンスから、また新たなジャンルが生まれることもあるのでしょうか。」